

からす踊り

(音頭とりの独唱)

ハアー この町の若い衆、鳥踊りを知らないか。

(踊り子の合唱)

知らないか、鳥踊りを知らないか。

ハアー 知らなきゃ教る、両手たたいて地を踏んで。

地を踏んで、両手たたいて地をふんで。

ハアー 踊りの中に立ててよいのがボンボリだ。

ボンボリだ、立ててよいのがボンボリだ。

ハアー ボンボリよりも立ててよいのが酒樽だ。

酒樽だ、立ててよいのが酒樽だ。

ハアー 酒樽よりも、立ててよいのが17だ。

17だ、立ててよいのが17だ。

ハアー 17連れて、行こうか野沢の温泉へ。

温泉、行こうか野沢の温泉へ。

ハアー 温泉場の2階で、17おしゃくで酒をのむ。

酒をのむ、17おしゃくで酒をのむ。

ハアー 酒のむよいが、あとの勘定は誰がする。

だれがする、あとの勘定はだれがする。

ハアー 誰にもさせねい、あとの勘定はおれがする。

おれがする、あとの勘定はおれがする。

ハアー 天天じくの、天の河原が西東。

西東、天の河原が西東。

ハアー 西から東へ、北へまわれれば夜が明ける。

夜が明げる、北へまわれれば夜が明ける。

ハアー 夜が明けたら、東小窓に後光がさす。

後光がさす、東小窓に後光がさす。

ハアー 後光さす日さすあねさ島田に後光さす。

後光さす、あねさ島田に後光がさす。

ハアー のりつけほ一せ、テーテッポ、

あしたの天気はどうじゃいな、西の黒雲あら雨だ。

あら雨だ、西の黒雲あら雨だ。

ハアー 雨降らばふれ、こよい一夜はぬれに来た。

ぬれに来た、こよい一夜はぬれにきた。

ハアー ぬれには来たが、お主見たさに逢いたさに。

逢いたさに、お主見たさに逢いたさに。

ハア一 逢いたさ見たさ、主さ門まで三度通た。

三度かよた、主さかどまで三度かよた。

ハア一 三度ばかなんだ、せめて七度なんで来ない。

なんでこない、せめて七度なんでこない。

ハア一 七度八度、主さ病気で出て逢えぬ。

出て逢えぬ、主さ病気で出てあえぬ。

ハア一 主さの病気、千両かけてもなおしたい。

なおしたい、千両かけてもなおしたい。

ハア一 千両ばかなんだ、せめて万両となぜいわぬ。

なぜ言わぬ、せめて万両となぜ言わぬ。

ハア一 おらどこの衆は、おれにかかるとる忘れたか。

忘れたか、おれにかかるとる忘れたか。

ハア一 忘れはしねど、稲の出穂みてとってくれる。

とってくれる稲の出穂みてとってくれる。

ハア一 嫁とっくれりゃ、一段刈る草二段刈る。

二段刈る、一段刈る草二段刈る。

ハア一 二段の草も鎌はいらぬ手でむしる。

手でむしる、鎌はいらぬ手でむしる。

ハア一 真剣だして踊れ下駄の前ばのかけるまで。

かけるまで、下駄の前ばのかけるまで。